

---

# アルス国際製靴学校研修体験記

平成28年8月27日～11月26日

研修生 細 洸 亮  
酒 井 由水流

---

## 1 研修課題

- (1) パターン作成の基礎知識と基礎技術の習得  
指定されたデザイン画と木型に対してアルス式のルールに則り、パターンを作成
- (2) 靴の製法と構造、又その特徴の理解  
セメント、マッケイ、グッドイヤー、ステッチダウン、バルカナイズ、ストローベル、インジェクション、オパンカなど
- (3) 革の種類、性質、適した部位や製品の理解  
紳士or婦人、アッパーor底材、靴or鞆など（適材適所を学ぶ）
- (4) 木型についての理解  
サンダルやパンプス、紐靴、ブーツそれぞれに適した木型の特徴とその理由など
- (5) タンナーや工場、展示会见学  
革の鞣し工程や現地メーカーでの製造工程、革の見本市などの見学
- (6) プロトタイプの作成  
デザイン画を作成し、木型、底材、革を選択し、自分でパターンを作成
- (7) 卒業試験  
これまで学習した知識と、身に付けたパターン作成技術の確認

## 2 研修内容と日程

- (1) 授業スケジュール
  - ①全体スケジュール  
8月29日～11月25日  
1～9週目 パターン作成の反復練習  
10～12週目 プロトタイプ作成  
13週目 卒業試験
  - ②週間・時間スケジュール  
・月曜日～金曜日  
9：00～13：00  
14：00～17：00  
・土、日、祝日  
休 講
  - ③日程  
8月27日（土）  
羽田空港を出発  
8月28日（日）  
ミラノ・リナーテ空港到着  
8月29日（月）～11月25日（金）  
アルス国際製靴学校にて受講  
11月25日（金）  
ミラノ・リナーテ空港を出発  
11月26日（土）  
羽田空港到着
- (2) 授業の進め方  
・実技の進め方  
講師が、生徒全員を机の周りに集めて、注意点等を説明しながら型紙を作成し、生徒はそれに習い各自で型紙を作成。

完成したものを講師に確認してもらい、必要に応じて提出する。

不明な点は適宜質問をし、それに対して講師も丁寧に返答してくれる。

一連の実技の中でプロトタイプ作成に当たり必要な技術と知識が身に付いていくようなカリキュラムになっており、最終的には余程特別なデザインの靴でなければパターン作成が可能。



写真1 講義の様子

### 3 講義内容

- (1) 紳士、婦人の様々な靴種に沿ったパターンメイキング
  - ・ダービー、オックスフォード、パンプス、サンダル、ローファー、モカシンを経て、ブーツや左右非対称、一枚革のアップパーのパターン作成
- (2) 各デザイン毎に紙アップパー、紙ライニングを作成
  - ・作成後、不備がないか実際に木型に重ねて確認し、時折詳細な情報を封筒に記入し、実際のサンプル作成の前段階の流れまでの工程を行い、提出
- (3) 革見本市 (LINEA PELLE)
  - ・講師の引率で主要な革メーカーのブースを視察
- (4) 工場見学：ミラノ市郊外

- ・タンナー (PO.TE.CO社)
- ・靴メーカー (MARTINOLI社)
- ・染色・仕上げ工場 (KENDA FARBEN社)

#### (5) コンペ用デザイン画作成

- ・Gea Gomma社ナチュラルバーソールを使い、紳士靴サイズの指定された木型を基にデザイン画1点提出

#### (6) 卒業制作

- ・木型、ソール、ヒールを自由を選び、自らのデザインでプロトタイプのパターンを作成、革の裁断後、それぞれの専門技術者がプロトタイプを作成してくれる

#### (7) 卒業試験

- ・筆記 イギリスサイズ、アメリカサイズ、フレンチサイズの換算方法、型紙作成の基本ルールなど
- ・実技 紳士靴か婦人靴を選び、くじで引いた番号のデザイン画の型紙を作成
- ・面接 講師4名と、作成した紙アップパーや提出物、前日の筆記試験や講義内容について、口頭で質疑応答



写真2 LINEA PELLEの様子



写真3 タンナー見学の様子



写真4 プロトタイプ製作の様子



写真5 クラスメイト・講師の皆さんと

#### 4 研修成果

今回の3か月の研修を通して、これまで知らなかったパターン製作のルールやテクニックなどを、集中して学びました。また、世界各地から集まった靴業界に関わる、もしくはこれから関わっていく同世代の若い人達と触れあい、様々な情報を交換したりこれからの靴業界への考え方などを語り合ったことで、非常に多くの刺激を受ける事が出来ました。

そして、靴だけでなく現地の美術館や古くから残る街並みなど、美的な刺激やインスピレーションを受ける機会が多く、3か月という長い期間を異国の地で過ごすことにより、現地のファッションや生活スタイルの中に存在する靴というものが、どのように人々と関わりあっているのか、といった事も肌で感じる事ができ、非常に貴重な経験をする事が出来ました。

今後、この経験を基にさらに技術と知識を身に付け、業界全体の発展に貢献できるように努めていきたいと考えます。

最後に、人生で一度経験できるかどうかのこのような貴重な機会を提供して下さった、東京都産業労働局、東都製靴工業協同組合の皆様、派遣研修事業に携わった全ての方に心より感謝申し上げます。